

---

PC ラベルソフト TEPRA Label Editor SPC10

「SPC10-API」機能

ユーザーズガイド

---

## 目次

「SPC10-API」機能.....	1
印刷コマンド.....	2
LW1 ファイル.....	4
CSV ファイル.....	5
SPC10 の環境設定.....	6
プリンタの設定.....	6
拡張機能.....	8

## 「SPC10-API」機能

「SPC10-API」機能（アプリケーション連携機能）を使用することで、PC ラベルシステム TEPRALabel Editor SPC10（以下 SPC10）の編集画面を起動せずに LW1 ファイル（レイアウトファイル）、CSV ファイル（データファイル）、印刷部数を指定し、印刷をおこなうことが可能です。

また、「SPC10-API」機能を Excel や Access の VBA、Visual Basic、Visual C++ で作成したアプリケーションより実行することも可能です。

SPC10 及び Windows の基本操作につきましては、各ソフトに添付のマニュアルおよびヘルプをご参照ください。

ご使用前に本書をお読みいただき、正しいお取り扱いで「SPC10-API」機能をご活用いただきますようお願い申し上げます。

「SPC10-API」機能は、SPC10 Ver. 1.00 以降に搭載されています。

## 印刷コマンド

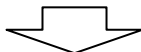
印刷コマンドは2通り用意されています。

### ■/pt オプション

/pt オプションは、Microsoft Windows 標準印刷アクションです。  
コマンド内で指定したプリンタに印刷をおこないます。

#### 記述例

```
"C:¥Program Files (x86)¥KING JIM¥TEPRA Label Editor SPC10¥SPC10.exe"/pt  
"D:¥sample.lw1,D:¥data.csv,2" "KING JIM SR5900P"
```



```
"SPC10 のフルパス名"/pt_"LW1 ファイルのフルパス名,CSV ファイルのフルパス名,印刷部数"_プリンタ名"
```

#### 注意

( \_ ) 部分には半角スペースを入力してください。

LW1 ファイル、CSV ファイルをフルパス名で指定しない場合、ファイルが見つからず印刷されない場合があります。ファイルをフルパス名で指定するか、SPC10 のインストールフォルダにそれぞれのファイルをコピーしたうえでファイル名を指定してください。

LW1 ファイル、CSV ファイル、印刷部数の並びは変更しないでください。

印刷部数は省略することもできます。省略した場合は1部のみ印刷します。

コマンドの指定が間違っている場合、CSV ファイルが見つからない場合は「引数が異常です。」とメッセージが表示されます。

プリンタ名は、コントロールパネルのプリンター一覧に表示されるプリンタ名を入力します。

#### <指定したプリンタがインストールされていない場合の出力プリンタ>

他の TEPRA がインストールされている場合は、SPC10 で使用した TEPRA または最初に見つかった TEPRA より印刷をおこないます。TEPRA がインストールされていない場合は、印刷をおこないません。

指定した TEPRA がオフラインの場合は「「テプラ」本体の電源が入っていないか、PC リンク状態でないか、またはケーブルが接続されていません。印刷を中止しました。」とメッセージが表示されます。

## ■/p オプション

/p オプションは、Microsoft Windows 標準印刷アクションです。  
出力されるプリンタは状況によって自動選択されます。

### 記述例

```
"C:¥Program Files (x86)¥KING JIM¥TEPRA Label Editor SPC10¥SPC10.exe"/p  
"D:¥sample.lw1,D:¥data.csv,2"
```



```
"SPC10 のフルパス名"/p_"LW1 ファイルのフルパス名,CSV ファイルのフルパス名,印刷部数"
```

### 注意

( \_ ) 部分には半角スペースを入力してください。

LW1 ファイル、CSV ファイルをフルパス名で指定しない場合、ファイルが見つからず印刷されない場合があります。ファイルをフルパス名で指定するか、SPC10 のインストールフォルダにそれぞれのファイルをコピーしたうえでファイル名を指定してください。

LW1 ファイル、CSV ファイル、印刷部数の並びは変更しないでください。

印刷部数は省略することもできます。省略した場合は 1 部のみ印刷します。

コマンドの指定が間違っている場合、CSV ファイルが見つからない場合は「引数が異常です。」とメッセージが表示されます。

### <状況別出力プリンタ>

優先順位	「通常使うプリンタ」設定	出力プリンタ
1	TEPRA 以外のプリンタ	オンライン中の TEPRA
2	TEPRA	通常使うプリンタ (TEPRA)
3	TEPRA 以外のプリンタ (SPC10 起動実績あり)	前回使用 TEPRA
4	TEPRA 以外のプリンタ (SPC10 起動実績なし)	最初に見つかった TEPRA

TEPRA がインストールされていない場合は、印刷をおこないません。

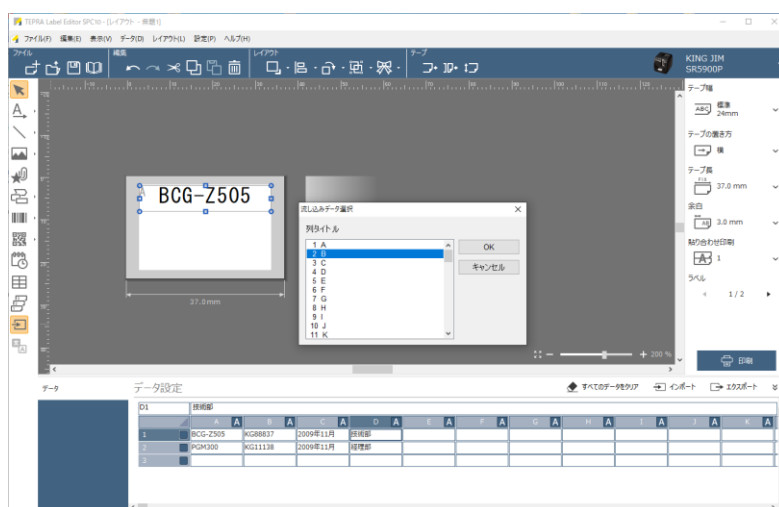
出力プリンタがオフラインの場合は「テプラ」本体の電源が入っていないか、PC リンク状態でないか、またはケーブルが接続されていません。印刷を中止しました。」とメッセージが表示されます。

## LW1 ファイル

SPC10 で作成されたレイアウトファイルです。

SPC10 を起動し、流し込み枠を設定したレイアウトファイルを作成します。

※レイアウトファイルの作成方法は、SPC10 のマニュアルをご参照ください。



### 注意

流し込むデータの量によって、文字やバーコードなどの表示が小さくなる可能性があります。「SPC10-API」機能を使用する際は、流し込むデータの量に応じて流し込み枠のサイズを調整してください。

印刷時にバーコードのサイズが変わる場合は、「印刷時のバーコードのサイズが変わる可能性があります。このまま印刷しますか？」とメッセージが表示されます。必要に応じて流し込み枠のサイズを調整してください。

### 「SPC10-API」機能用 LW1 ファイル作成の注意事項

- 「SPC10-API」機能での印刷には、レイアウトファイルの列属性を使用します。（あらかじめ SPC10 上で列属性を設定しておいてください。）
- レイアウトファイルに対応するセルデータが入力済みの場合でも、CSV ファイルデータを上書きします。また、セルデータの印刷チェックマークも無効になり、CSV ファイルの全データを印刷します。
- 以前の形式のレイアウトファイル（TPE ファイル）をお持ちの場合は、LW1 ファイルの代わりに TPE ファイルを使用して「SPC10-API」機能をご利用することも可能<sup>\*1</sup>です。

※1 TPE ファイルを使用して「SPC10-API」から印刷した場合、一部のレイアウトが変更される場合があります。

ファイルの互換性につきましては、各ソフトに添付のマニュアルをご参照ください。

## CSV ファイル

「SPC10-API」機能を使用して印刷をおこなう CSV 形式（カンマ区切り、タブ区切り）のデータファイルです。（文字コード：UTF-16、リトルエンディアン、BOM 付与）

レイアウトファイルのデータ画面に、CSV ファイルの行の先頭から順番にデータを取り込みます。

「SPC10-API」機能で QR コードを作成、印刷する場合、QR コード中でのデータの改行は、“¥r¥n”または“¥¥r”、“¥¥n”で設定することができます。（“¥r¥n”は CR+LF に、“¥¥r”は CR に、“¥¥n”は LF に変換します。）

### 注意

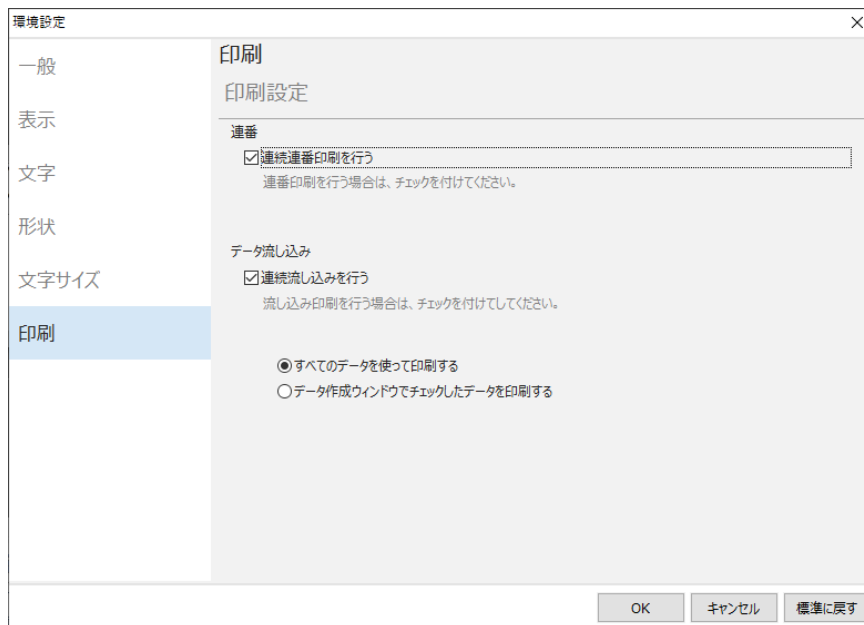
CSV ファイルの先頭行に列タイトルが含まれるデータ※1 を使用して印刷をおこなう場合、「SPC10-API」拡張機能、「CSV ファイルの読み込み制御設定」オプションを使用することで先頭行の印刷を制御することができます。機能の詳細につきましては、「SPC10-API」機能ユーザズガイド『拡張機能』の項目をご参照ください。

※1 SPC10 からデータをエクスポートする際に表示されるメッセージ「列タイトルを1行目として保存しますか？」に「はい」を選択して保存した場合など

## SPC10 の環境設定

- ・ 連番の設定

連番を印刷する場合は、SPC10 の環境設定より連番の設定をおこないます。



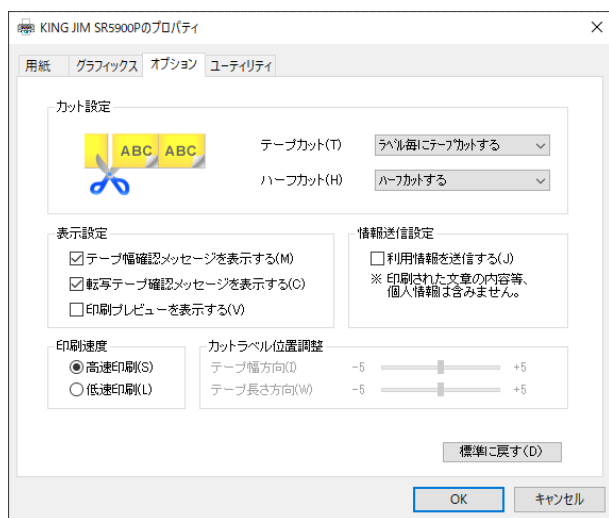
## プリンタの設定

- ・ 印刷に使用する TEPPRA のインストール
- ・ プリンタオプション設定

「SPC10-API」機能での印刷は、印刷ダイアログが表示されません。テープカットの設定や、メッセージの表示設定等は、事前にプリンタのプロパティより設定をおこなってください。

- ① Windows の[スタート]－[設定]－[デバイス]を選択します。
- ② [プリンターとスキャナー]を選択します。
- ③ 表示されるリストの一覧から印刷に使用する TEPPRA のプリンタをクリックし、[管理]を選択します。
- ④ [印刷設定]を選択します。
- ⑤ 印刷設定画面が表示されます。

各タブをクリックし、必要に応じて設定を行ってください。





## 拡張機能

印刷コマンドに各オプションを付加することで、以下の機能を実行できます。

No.	オプション	機能
1	/F	テープ送り
2	/FC	テープ送りカット
3	/GT [ファイル保存場所・名称]	テープ幅のファイル出力
4	/IP [ファイル保存場所・名称]	流し込み枠のファイル出力
5	/K	CSV データの半角→全角カタカナ変換
6	/B [ページ指定] [BMP 保存場所・名称]	プレビュー用 BMP の出力
7	/L [ファイル保存場所・名称]	印刷結果のファイル出力
8	/C [フルカッター設定] [ハーフカッター設定]	カット設定
9	/TW [On/Off 設定]	テープ幅確認メッセージの On/Off 設定
10	/E [エラー表示 On/Off 設定] [ファイル保存場所・名称]	エラー表示の On/Off エラーのファイル出力
11	/TR [On/Off 設定]	転写検出 (印刷設定確認) メッセージ表示の On/Off 設定
12	/CT	CSV ファイルの読み込み制御設定

### <使用方法>

- ・ /p や /pt の印刷コマンドの後ろに、カンマと半角スペースを挿入し、その後に各オプションを半角スペースで区切って入力してください。
- ・ オプション全体は、" (ダブルクォーテーション) で囲み、オプション間はカンマで区切ってください。

### 記述例

```
"C:¥Program Files (x86)¥KING JIM¥TEPRA Label Editor SPC10¥SPC10.exe"/p  
"D:¥sample.lw1,D:¥data.csv,2, /B -a D:¥temp,/TW -off"
```

### 注意

プリンタがオンラインの状態で行ってください。

/p や /pt の印刷コマンドのファイルパスや記載方法が正しく、かつ印刷ができる状態で実行してください。

LW1 ファイル、CSV ファイル、部数の指定は省略しないでください。

## 1. テープ送り

印刷対象となるプリンタに対してテープ送りを実行します。

### ■ オプション

/F

## 2. テープ送りカット

印刷対象となるプリンタに対してテープ送りカットを実行します。

### ■ オプション

/FC

## 3. テープ幅のファイル出力

印刷対象となるプリンタに対してテープ幅の取得をおこない、結果をテキストファイルに保存します。

### ■ オプション

/GT\_[ファイル保存場所・名称]

※アンダーバーは半角スペースを意味する

ファイル保存場所・名称：(保存場所・名称のフルパス名)

※フォルダが存在しない場合は作成する

※.txt の拡張子を付けること

例) /GT D:¥temp¥tapewidth.txt

### ■ 保存ファイル仕様

・ Unicode (UTF-16) テキスト形式

・ 記載内容

1 行目にテープ幅、2 行目にカットラベル／転写テープ／その他のテープ種類を記載する。

[テープ幅]\_[文字列]

[テープ種類]\_[文字列]

※アンダーバーは半角スペースを意味する。

1 行目 [テープ幅]: [文字列]

0x00: None

0x01: 6mm

0x02: 9mm

0x03: 12mm

0x04: 18mm

0x05: 24mm

0x06: 36mm

0x07: 50mm

0x0B: 4mm

0x21: 50mm

※WR1000 用

0x23: 100mm

※WR1000 用

0xFF: Unknown

2 行目 [テープ種類]: [文字列]

0x01: Pre-cut\_label

※カットラベル

0x02: Transfer\_tape

※転写テープ

0x00: Standard\_tape

※上記2種以外

※アンダーバーは半角スペースを示す。

例) 12mm テープ検出の場合

0x03\_12mm

0x00\_Standard\_tape

例) カットラベル

0x06\_36mm

0x01\_Pre-cut\_label

例) 宛名ラベル (WR1000)

0x23\_100mm

0x01\_Pre-cut\_label

例) 24mm 転写テープ

0x05\_24mm

0x02\_Transfer\_tape

■ファイル保存場所について

- ・同名のファイルが存在する場合は上書きする
- ・アクセス権限やドライブが存在しない等の理由でファイルが作成できない場合はエラーとなる

#### 4. 流し込み枠のファイル出力

レイアウトファイル (.lwl) に含まれる各流し込み枠の「列 No」「列タイトル」「列属性」をテキストファイルに保存します。

■オプション

/IP\_[ファイル保存場所・名称]

※アンダーバーは半角スペースを意味する

ファイル保存場所・名称：(保存場所・名称のフルパス名)

※フォルダが存在しない場合は作成する

※.txt の拡張子を付けること

例) /IP D:¥temp¥import\_log.txt

■保存ファイル仕様

- ・Unicode (UTF-16) テキスト形式
- ・ファイルの先頭にファイル名を出力する
- ・記載順は、流し込み枠の重なり順の上から (前面→背面) とする
- ・記載内容

[列 No][Colon][列タイトル][Colon][列属性][改行コード]

列 No :            A, B, C, D …

列タイトル :        列タイトル

列属性 :            テキスト, イメージ, バーコード<sup>®</sup>, カスタマーバーコード<sup>®</sup>

※[Colon]は UTF-16 コードの U+003A を示す

例)

C:¥Users¥ユーザー¥Desktop¥備品管理.lw1[改行コード]

E:コード:バーコード CODE128[改行コード]

D:部門:テキスト[改行コード]

C:購入日:テキスト[改行コード]

B:品名:テキスト[改行コード]

A:番号:テキスト[改行コード]

■ファイル保存場所について

- ・同名のファイルが存在する場合は上書きする
- ・アクセス権限やドライブが存在しない等の理由でファイルが作成できない場合はエラーとなる

## 5 . CSV データの半角→全角カタカナ変換

データ取り込み時に CSV ファイル内にある半角カタカナを全角カタカナに変換します。

■オプション

/K

## 6 . プレビュー用 BMP の出力

印刷内容を BMP ファイルで指定した保存場所、ファイル名にて保存します。

■オプション

/B\_[ページ指定]\_[BMP 保存場所・名称]

※アンダーバーは半角スペースを意味する

ページ指定 : (全ページ) -a

(ページ指定) x:y

※x は開始ページ、y は終わりページを記載します。

BMP 保存場所・名称 : (BMP 保存場所・名称のフルパス名)

※フォルダが存在しない場合は作成する

※. bmp の拡張子はファイル出力時に自動的に付加される

例) /B 4:5 D:¥temp¥File

■保存 BMP ファイル仕様

- ・モノクロビットマップ
- ・ファイル名称末尾に自動的に付番します

例) ¥temp¥File とした場合 File1.bmp, File2.bmp, File3.bmp

■BMP ファイル保存場所について

- ・同名のファイルが存在する場合は上書きする
- ・アクセス権限やドライブが存在しない、ページ指定範囲が異なる等の理由で BMP ファイルが作成できない場合はエラーとなる

■設定条件

- ・本体を USB で接続した際の共有プリンタ動作時は印刷プレビューの BMP 出力はされない

## 7 . 印刷結果のファイル出力

印刷の成功可否の結果をテキストファイルに保存します。

■オプション

/L\_[ファイル保存場所・名称]

※アンダーバーは半角スペースを意味する

ファイル保存場所・名称：(保存場所・名称のフルパス名)

※フォルダが存在しない場合は作成する

※. txt の拡張子を付けること

例) /L D:¥temp¥print\_log.txt

■保存ファイル仕様

- ・Unicode (UTF-16) テキスト形式
- ・記載内容  
[印刷結果][改行コード]

印刷結果：(成功) 0[Tab]succeed

(失敗) 1[Tab]fail

※[Tab]は UTF-16 コードの U+0009 を示す

#### ■ファイル保存場所について

- ・同名のファイルが存在する場合は上書きする
- ・アクセス権限やドライブが存在しない等の理由でファイルが作成できない場合はエラーとなる

#### ■設定条件

- ・本体を USB で接続した際の共有プリンタ動作時は印刷結果のファイル出力はされない

## 8 . カット設定

フルカッター、ハーフカッターの動作設定をおこないます。

本オプション指定がない場合は、ドライバ側で保持している設定に従って動作します。

※本オプションの設定は実行時のみ反映され、ドライバ側で設定を保持しません。

#### ■オプション

ハーフカッター対応機 : /C\_[フルカッター設定]\_[ハーフカッター設定]

ハーフカッター未対応機 : /C\_[フルカッター設定]

※アンダーバーは半角スペースを意味する

フルカッター設定：(ラベル毎にテープカットする)	-f
(印刷 JOB 毎にテープカットする)	-fj
(テープカットしない)	-fn
ハーフカッター設定：(ハーフカットする)	-h
(ハーフカットしない)	-hn

例) /C -f -hn

#### ■設定条件

- ・ハーフカット未対応機でハーフカッター設定をしている場合はハーフカッター設定を無視する





例) /E -off D:¥temp¥E\_log.txt

■保存ファイル仕様

- Unicode (UTF-16) テキスト形式
- 記載内容

[タイムスタンプ]\_[エラーNo]\_[エラーメッセージ]

※アンダーバーは半角スペースを意味する

タイムスタンプ：発生日時 (YYYY/MM/DD\_hh:mm:ss)

エラーNo：エラーを示す数字 (画面表示と同じ/半角数字 2 文字)

エラーメッセージテキスト：エラーメッセージの文字列 (画面表示と同じ/改行コードは削除)

■ファイル保存場所について

- 同名のファイルが存在する場合は上書きする
- アクセス権限やドライブが存在しない等の理由でファイルが作成できない場合はエラーとする
- エラーメッセージ表示が Off でも、ファイル作成ができない場合は下記エラー表示を行う  
「ログ作成に失敗しました。」「OK」

■設定条件

- 本体を USB で接続した際の共有プリンタ動作時はエラーメッセージのファイル出力はされない

## 1 1 . 転写検出 (印刷設定確認) メッセージ表示の On/Off 設定

印刷実行時の転写テープ検出 (印刷設定確認) メッセージの表示有無を設定します。

本オプション指定がない場合は、ドライバ側で保持している設定に従って動作します。

※本オプションの設定は実行時のみ反映され、ドライバ側で設定を保持しません。

■オプション

/TR\_[On/Off 設定]

※アンダーバーは半角スペースを意味する

On/Off 設定：(メッセージ有り) -on

(メッセージ無し) -off

例) /TR -off

■設定条件

- ・転写テープ未対応機の場合は設定を無視する

## 1 2 . CSV ファイルの読み込み制御設定

印刷時に CSV ファイルの 1 行目のレコードを読み飛ばすかどうかを設定します。

このオプションを指定した場合、CSV ファイルの 2 行目のレコードから順にデータを取り込み、印刷を行います。CSV ファイルの 1 行目にヘッダー情報が記述されている場合にこのオプションを指定してください。

このオプションを指定しない場合は、CSV ファイルの 1 行目から順にデータを取り込み、印刷を行います。

■オプション

/CT

キングジム、KING JIM、テプラ、TEPRA は、株式会社キングジムの商標または登録商標です。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

QR コードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

**PC ラベルソフト TEPRA Label Editor SPC10 「SPC10-API」機能 ユーザーズガイド**  
**2021年8月**  
**発行:株式会社キングジム**  
**Copyright 2000-2021 KING JIM CO.,LTD.**